

市立

1999年(平成11年)9月1日発行

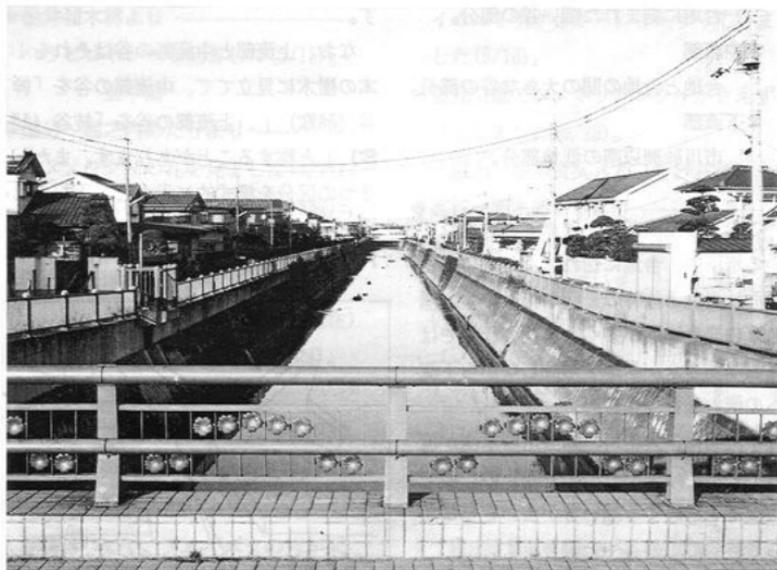
市川自然博物館

6・7月号

(通巻第62号)

だより

川のⅡ 『上・中・下流
かんさつ の3区分』



△住宅地の中を整然と流れる中流部。

(大柏川)

川の かんさつⅡ

『上・中・下流 の3区分』

市内の主要な水系——国分川水系、大柏川水系——は、小規模とはいえ、数^{km}から十数^{km}の長さにわたって広がっています。流域には、湧き水があって水源となっている場所もあれば、川幅が広く流れがゆるやかな場所もあります。今回は、市内の水系を流域の環境に応じて3つに区分する考え方をご紹介します。

上・中・下の3区分

市内の水系は、つぎのように区分して考えることができます。

*上流部

台地に刻まれた細い谷の部分。

*中流部

台地と台地の間の大きな谷の部分。

*下流部

市川砂洲以南の低地部分。

このうち上流部は「谷津」と称されている場所で、台地に切れ込んだ細い谷と斜面林による独特の景観が特徴です。湧き水の発生場所が多く、自然の状態では豊富な湧き水が湿地を形成しながら下流への流れを作ります。

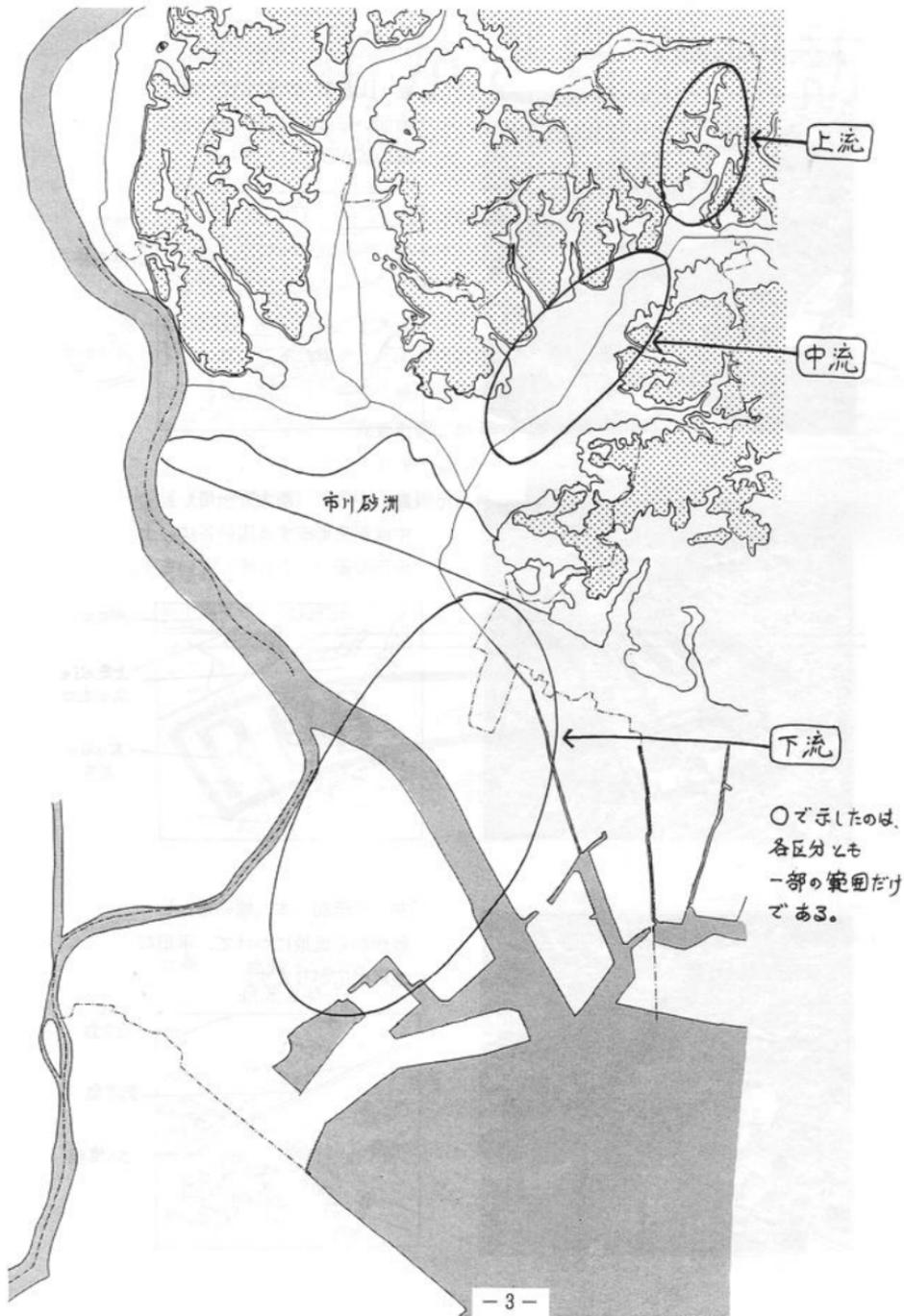
中流部は、大柏川、国分川の本流が流れている谷（大柏谷、国分谷）のことで、上流部を形成する細い谷が合わさりながら最終的にこの谷へと続きます。

下流部は、市川砂洲以南の、自然状態では水路とアシ原であったような低地部分です。前回紹介したように、市川砂洲以南については本来は国分川・大柏川

水系とは別の水系として考えるべきですが、流域の環境という観点で見れば下流部としての特徴を備えているので、ここでは便宜的に、上流部、中流部から続く形で、下流部として区分することにします。

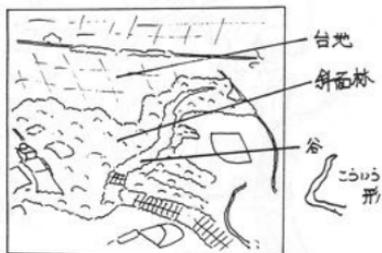
なお、上流部と中流部の谷はそれを1本の樹木に見立てて、中流部の谷を「幹谷（ツグ）」、上流部の谷を「枝谷（エダ）」と称することがあります。また、3つの区分を模式的に示すと、下記のようになり、実際の地図上に示すとつぎのページのようになります。



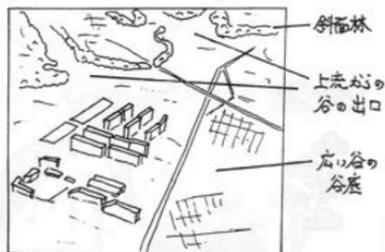




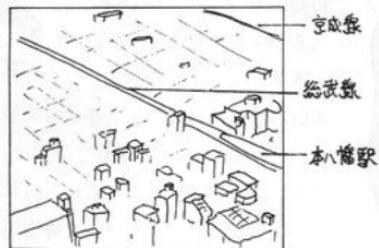
〔左：上流部（大町公園一帯）〕
画面いっぱい広がる台地に、
細い谷が切れ込んでいます。



〔左：中流部（南大野一帯）〕
中流部を形成する広い谷に、上
流部の細い谷が合流しています。



〔左：下流部（本八幡一帯）〕
砂洲から低地にかけて、平坦な
地形が広がります。





街かど自然探訪

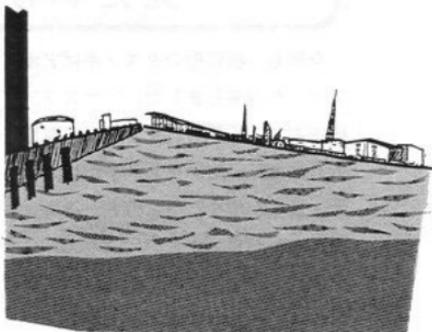
おじゃまします!

ふたまたしんまち

二俣新町・新港大橋周辺

二俣新町は、昭和35年から38年にかけて、東京湾の浅瀬を利用して埋め立てられた約68ヘクタールの土地です。

この町は工業地域のため、自由に護岸に近寄れる場所は、新港大橋の周辺だけです。JR京葉線「二俣新町駅」から、南へ徒歩約20分の所に、新港大橋があります。橋下を歩いて行くと護岸があり、マガキやムラサキイガイなどでびっしりと覆われています。水面にはミズクラゲや小魚などを見ることができます。



新港大橋下より船橋方面を望む

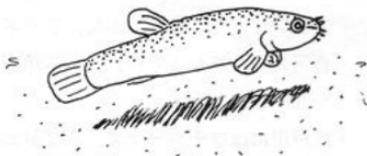
RDB レッドデータブック

掲載種紹介



ホトケドジョウ

分類 魚類ドジョウ科
ランク 絶滅危惧 Ib



環境庁がレッドデータブックの見直し作業の中で新たに発表したレッドリストには、ごく身近な魚が何種類か含まれていました。その中にメダカが入っていたことは大きな反響を呼びましたが、ホトケドジョウもまた、知名度こそ低いものの身近な魚のひとつと言えます。

市内では谷津の環境に生息します。かつては各所に生息していたと思われますが、現在では大町公園の自然観察園でしか見ることができなくなりました。

アオスジアゲハの卵を 見たいけど……

今年も、街路樹のクスノキにアオスジアゲハが飛来しました。アオスジアゲハは市内で広く見られますが、目撃場所の近くにはたいていクスノキが生えています。幼虫が葉をたべるので、クスノキに卵を産むからです。

でも、アオスジアゲハはいつも高いところをせわしく飛んでいます。そのせいか、「産卵しているところは、全然見られません」とのことでした。

(情報提供：水垣麻理子さん)



むかしの市川

このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています(原則として回答の原文のまま掲載)。

- ・家の前の小川にははたるがとびかい、夜になるとふくろうが鳴きたるところに沼が有り都たなご、くちぼそ(フナ)、ざりがになどがとれた。(S20年頃) (東菅野)
- ・家の裏の農業用水路(巾2m弱)では、「うなぎ」「こい」「ふな」等がよくとれた。(水路をせきとめて水をばけつでかいだしてつかまえた)。原上山妙行寺の裏の池には、すい蓮の花が咲き、きれいだった。また、ふな、ライギョ、食用ガエル等がよく釣れた。昭和19年~26年頃。(原山)
- ・江戸川にはフナやナマズ、手ながエビが沢山生息していた。又、江戸川の中洲にはヨシが密生していた。(新井)

観察

ノート

◆自然観察園一帯より

- ・今年もツマキチョウが見られました。春の湿地で見られます(4/6)。

清野元之(自然博物館)

- ・ヤマカガシの子が、池の水面を泳ぐヒキガエルのおたまじゃくしを餌にしていた(5/7)。

金子謙一(自然博物館)

- ・オオヤマアリの新女王が結婚飛行に飛び立っていきました(5/21)。

小川 晃(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・ハラビロトンボを見ました(5/15)。

金子謙一

◆国分～堀之内あたりより

- ・イヌフグリの花を見ました(4/11)。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・満開のイヌザクラを初めて見ました。堀之内貝塚の入口です(4/25)。

秋元久枝さん(国府台在住)

- ・カッコウの声を聞きました(5/24)。

大野さん

- ・ホトトギスの声を聞きました(5/26)。

金子謙一

◆国府台～真間あたりより

- ・今年はずじめて、アオバズクの声が聞こえました。民家のテレビアンテナの上で鳴っていました。アオバズクは、高

いアンテナの上や木のでっぺんや電柱の上など、よく見える所で鳴くので観察しやすいです(5/5)。

秋元久枝さん

- ・里見公園でキビタキ、センダイムシクイのさえずりが聞こえました(4/29)。

- ・真間山弘法寺と里見公園でエゾムシクイがさえずっていました(5/8)。

- ・国府台2丁目に今年もアオバズクが2羽飛来しました。13年連続です(5/15)。

- ・里見公園のヒマラヤスギのでっぺんでイカル1羽がさかんにさえずっていました(5/18)。

- ・里見公園でコメボソムシクイがさえずっていました(5/29)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆高谷～原木あたりより

- ・カイツブリ2羽を見ました。池で1羽は巣の上ののっていました。抱卵しているのでしょうか(5/16)。

- ・ゴマダラチョウ2匹が、池の周囲を飛んでいました(5/16)。

- ・イワツバメ5羽が、倉庫の中に入っていました。巣があるのでしょうか(5/16)。

以上 田中利彦さん(船橋市在住)

◎4～5月は、春から梅雨へと、きわめて順調に季節が推移しました。



行事案内



§ 申込の必要な行事です §

- 親子コース…親子向けの内容で、楽しみながら自然に親しみます。
- 一般コース…大人向けの内容で、じっくりと観察し、分類や環境などについてわかりやすく解説します。

自然観察会

… 定員 各日先着20名

テーマ	コース	日時	場所	受付開始
野鳥保護区の観察	合同コース	9月12日(日)午前	行徳野鳥観察舎	8月21日～
道域散策-国分川-	一般コース	10月10日(日)午後	北国分駅～ 国府台駅	9月18日～

* 5～6 km歩きます。健脚の方向きです（行程途中までの参加も可）。

虫の声を聴こう

- * 日時 親子コース 9月18日(土)
一般コース 9月19日(日) 各コース共に午後6時～8時
- * 場所 大町自然観察園
- * 定員 各日先着30名。9月4日より受付開始

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名と参加したいコース名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

§ 申込の必要はありません § 直接会場におこください。

柏井散策会

市内で一番大きな雑木林を散策しながら、四季の自然を楽しみます。

申し込みは必要ありませんが、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください。

- ・ 日時 毎月第3土曜日
おもに午後に行きます
- ・ 毎回の詳しい内容については、毎月第2土曜日発行の『広報いちかわ・施設ガイド』をご覧ください。博物館にお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
第11巻 第2号 (通館第62号)
発行日/平成11年9月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>